

16 知床（日本）(N1193)

世界遺産一覧表記載年

2005

クライテリア

(ix)(x)

世界遺産危機リスト掲載年

N/A（該当せず）

世界遺産委員会決議

29COM8B.6

国際援助

N/A

UNESCO 臨時予算基金（extra-budgetary fund）

N/A

前回のモニタリングミッション

2008 年 2 月：UNESCO/IUCN 合同ミッション

前回報告時における主な課題（脅威）

- a) 海域管理計画の作成を急ぐこと；
- b) サケ科管理計画を作成すること；
- c) IUCN 評価書に含まれるその他の管理上の課題に対応すること。

現在の保全上の課題

当該国から 2008 年 1 月 31 日に包括的な保全状況報告を受領し、それには以下のような（登録後の）進捗状況が報告されていた。

- a) 遺産地域の保全と管理に助言するために科学委員会、3 つの専門家ワーキンググループ、および地域連絡会議が設置されたこと；
- b) 遺産の海域部分を（海岸から）1km から 3km に拡張し、改訂した地図は 2005 年 12 月に提出したこと；
- c) 多利用型統合的・海域管理計画の策定；
- d) サケ科魚類への河川工作物による影響評価とその対策；
- e) 遺産地域内および北海道全体におけるエゾシカの適正管理；
- f) エコツーリズム推進および利用の適正化のための戦略の開発および研究・モニタリング活動。

当該国の招聘により、世界遺産センター／IUCN の合同ミッションは 2008 年 2 月 18 日から 22 日に当該遺産地域を視察した。2005 年の世界遺産委員会決議で提示された種々の課題に対応した詳細なミッション報告は <http://whc.unesco.org/archive/2008> に掲載している。ミッション報告の主な内容は以下のとおりである。

海洋資源の管理

ミッションチームは多利用型統合的海域管理計画を検討し、それが海洋資源管理のための良い枠組となっていること、地域住民参加のもとで策定されたこと、現状で最高の科学的知見に基づいていることを認識した。しかしミッションチームはさらに詳細な内容、特に優先順位、責任分担とスケジュールの明確化に関連した事項が必要と感じた。また、スケトウダラやトドのような主要な指標種の保全のための明確な目標と指標が含まれるべきである。さらに現在個別に策定されている海域管理やエコツーリズム、その他の計画を統合して一つの包括的管理計画とする必要性を認めた。

魚類の長期的な保全を確保するため、管理方法の調整など、地元の漁業者と協議をしつつさらなる方策が求められる。海洋生物多様性の持続的な生産性を確保するために、ミッションチームは当該国が禁漁区や操業自粛など、地域に即した保全地域の特定や指定を検討するよう勧告した。また調査団は、漁業資源が遺産地域外で起こっている活動、特により広範囲でのオホーツク海での漁業活動に影響されていることに留意した。このため遺産地域の境界を超えた取組みが必要であり、すでに開始されているロシアの水産部局の代表との対話や協議を継続する必要がある。また絶滅危惧種のトドと漁業者との摩擦を最小にする有効な対策も必要である。

サケ科魚類および河川工作物の管理

サケ科魚類は当遺産地域の顕著で普遍的な価値の重要な要素の一つである。従ってそれらに、海洋と河川の生息地間の妨げのない自由な移動を提供することは重要な管理戦略である。当該国はすでに遺産地域内の 44 河川のうち 14 河川について工作物の改善を開始しているが、サケ科魚類の自由な移動を可能とするために、特にルシャ川などの重要な地域において、これらの努力を強化する必要がある。また、河川工作物の改善がサケ科魚類の個体群に与える長期的な影響を注意深くモニターする必要がある。

シカの管理

エゾシカの食圧が高く自然植生に影響を与えているかもしれないことが懸念されており、エゾシカ個体群の適切な管理は当該遺産の自然生態系および生物多様性の保全の上できわめて重要である。このため管理計画が策定、実施されているが、生態系およびエゾシカ個体群への影響をどちらも注意深くモニターし、管理方法はそれに合わせて順応させる必要がある。

エコツーリズムの管理

遺産地域の中および隣接地域において、責任のある観光活動や施設の開発のために、いくつかの活動が行われている。それらの活動は適正利用とエコツーリズムのワーキンググループに指導されており、地域社会や旅行および観光業界と協議・協力の上で実施されている。それらは遺産地

域の自然の特徴や価値に基づくものである。それらはまた、地域経済の発展と多様化に貢献することも目標としている。

気候変動

知床の顕著で普遍的な価値は北半球で最も低緯度に位置する海氷の存在と強く関係している。これが海洋生態系の生産性に影響し、それがさらに陸上生態系の生産性や多様性に影響している。長期的な気候変動はこの遺産地域に重大な影響を与えるかもしれず、その影響を注意深くモニタリングし、それに対応するために適切な適応戦略をとる必要がある。

ミッションチームは、世界遺産委員会および IUCN 評価書による勧告に対して、当該国の対応が順調に進捗していると認識した。特に、すべてのレベルの関係者が遺産地域の顕著で普遍的な価値と完全性の維持を確保するために強い意志を持って参加していることに強い印象を受けた。またミッションチームは、地域社会や関係者が参加したボトムアップ・アプローチの管理を行っていることや、すでに設置されている科学委員会や特定のワーキンググループを通して、科学的知見が有効に管理に適用されているやり方についても賞賛している。これらの点はほかの地域の自然遺産の管理に対しても、すばらしいモデルとなっている。

決議番号 32COM7B.16Corr

世界遺産委員会は、

1. 作業文書を検討し(examine)、
2. 第 29 回委員会で採択された決議 29COM8B.6 を想起し(recall)、
3. 遺産登録時の勧告に効果的に対応していることを賞賛し(commend)、
4. 世界遺産センター/IUCN 合同現地調査団の勧告に留意し(take note)、当該国に、特に以下の点に重点を置いて、その勧告を実施するよう要請し(request)、
 - a) さらなる保護の層を加える観点から、国際海事機関 (IMO) と共に、遺産地域の海域について、特別敏感海域 (PSSA) の指定について検討すること；
 - b) 海域管理計画を遺産地域全体の管理計画に統合し、活動内容や成果、客観的に検証できる指標を明確にし、役割と責任分担を明確にし、実施のためのスケジュールを詳細に示すこと；
 - c) 遺産地域全体の管理計画を見直し、海域やサケ科魚類、シカ、エコツアーリズムと適正利用を含むすべての個別計画を統合した形で完成させること；
 - d) 漁業資源も含む海洋の生物多様性の持続的生産力を確保するための、海洋の生息地の範囲内での禁漁区を含めた地域に即した保全地域の特定や指定、取組を検討すること；
 - e) 資源利用の問題、特にスケトウダラの持続可能でない漁獲について、長期的な解決策を見つけるためと、科学的情報の定期的な交換のため、ロシア連邦との間で始められた協力を継続すること；
 - f) 遺産地域内におけるサケの自由な移動を推進する対策を継続・推進させるとともに、サケの遡上個体を増加させるための対策を、特にルシャ川の工作物の改良を優先して継続、推進し、サケの個体群への影響をモニターすること；

- g) シカによる自然植生への食圧の影響の受容できる限界を定めるための指標を作成し、抑制措置が遺産地域のシカ個体群や生物多様性、生態系に与える影響をモニターすること；
- h) 遺産地域に関する統合的なエコツーリズム戦略を策定し、その戦略と知床内の観光・経済的開発の地域戦略との間に密接な連携・統合を確保すること；
- i) (i) モニタリングプログラムと、(ii) 知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小限にとどめるための順応的管理戦略とを含んだ知床の「気候変動戦略」を開発すること；

5. 2008年現地調査団の勧告の実施状況について世界遺産センターに定期的に連絡し、2012年の第36回世界遺産委員会でその実施状況を検討するために、それらの問題に関する報告を2012年2月1日までに世界遺産センターに提出することをさらに要請する(request)。